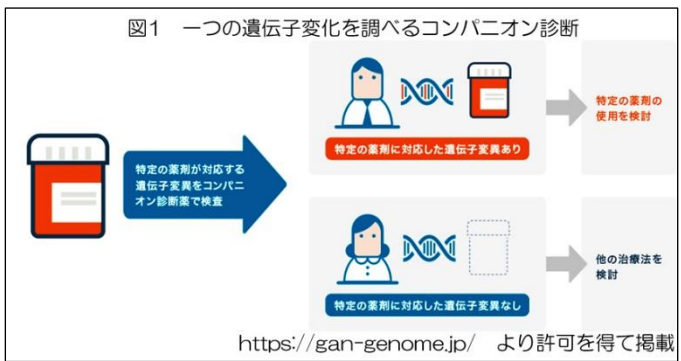


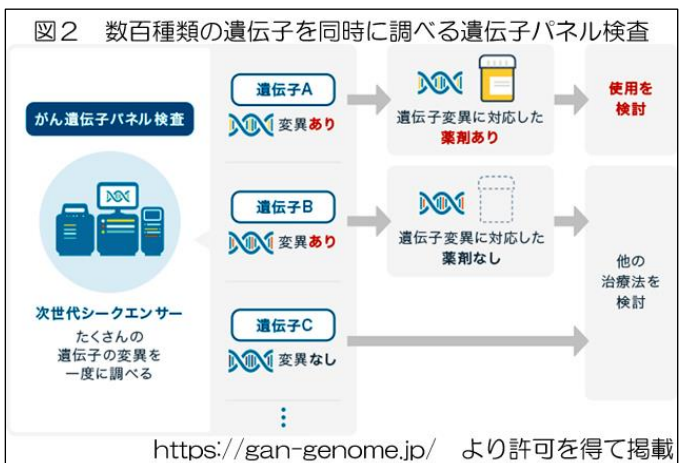


**患者さんに最適な薬剤を選択する  
「がん遺伝子パネル検査」を開始します！**  
藤が丘病院 内科(腫瘍・緩和医療)  
教授 市川 度

がんの薬物療法に用いられる薬には、従来の抗がん剤、ホルモン剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤(例オプジーボ)など、作用の異なるさまざまな種類があります。従来の抗がん剤は、正常な細胞にも同様に作用するため、副作用が生じることも少なくありません。これに対して、1990年以降に登場したのが「分子標的薬」です。分子標的薬が標的とするがん細胞の異常なタンパク質は、遺伝子変異によって作られるため、がん細胞の中に対応する遺伝子変異があるかを薬を使う前に調べる検査は「コンパニオン診断」(図1)とよばれ、2011年ごろから普及しはじめました。



ひとつの遺伝子の変化を調べる「コンパニオン診断」に続いて、2017年以降には、数百種類の遺伝子を一度の検査で同時に調べる「がん遺伝子パネル検査」(図2)が登場しました。わが国では、いくつかの条件を満たした場合には、保険診療のもとで「がん遺伝子パネル検査」が2019



年6月より受けられるようになりました。がん遺伝子パネル検査で遺伝子の変化が見つかった場合には、その遺伝子の変化に対して治療の効果があると考えられる薬剤の使用を検討します(現状では治療に結びつく可能性は10~20%と報告されています)。

藤が丘病院は2021年4月より地域がん診療連携拠点病院として専門的ながん医療を提供してきましたが、この度、がんゲノム医療連携病院にも指定され「がん遺伝子パネル検査」を開始することとなりました。今後は、がんゲノム医療拠点病院の聖マリアンナ医科大学病院と連携して、「がん遺伝子パネル検査」を用いた、より安心・安全ながん医療を地域の患者さんへ提供してまいります。

**進化するロボット手術  
低侵襲性を求めて**  
藤が丘病院 消化器・一般外科  
講師 梅本 岳宏

開腹手術から腹腔鏡下手術へと変遷し20年経過した現在。そして次の20年は腹腔鏡下手術から移行するロボット手術への幕開け、AI時代の到来です。昭和大学藤が丘病院消化器・一般外科で現在行われているロボット手術は、直腸癌に対するロボット支援直腸切除術です。

昭和大学藤が丘病院では、ロボット支援手術を行うため、2021年3月に手術支援ロボット da Vinci Siを導入しました。当消化器・一般外科では、およそ2年前よりがん研有明病院大腸外科 山口智弘医長の御協力を頂きながら、ロボット支援直腸切除術導入のための準備を行ってまいりました。当科でロボット手術を主に担当する梅本岳宏は、手術スタッフとのワーキンググループで綿密に準備を進め、がん研有明病院 山口医師より直接指導を受け、安全な手術の遂行技術を有しています。直腸癌患者さんが、より低侵襲でより高度な医療を受けたいとの希望を実現するといった目標でロボット手術を行っています。

下部消化管領域での da Vinci 手術の保険適応は、直腸癌に対するロボット支援直腸切除術です。緑内障患者さんのみ慎重に適応を定めておりますが、年齢や BMI 等の適応制限等は設けておりません。当院では da Vinci 導入以

降、ロボット手術の適応と判断された患者さんは、すべて da Vinci 手術を実施しています。現在までの成績は、術後入院期間は 11 日（7 日～19 日）と短期間で安全に施行しています。

当科へは日々、近隣クリニックや病院から患者さんをご紹介頂いております。ロボット支援手術が可能か？ といった問い合わせも頂けるようになってまいりました。地域の医療のために我々のロボット手術の技術がお役に立てることを願っています。

**心臓リハビリテーション  
エアロバイクで心臓病を治療する！**  
リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター  
理学療法士 宮澤 僚

心筋梗塞や心不全患者も適切な評価に基づき運動処方を行うことで、心機能を悪化させることなく、安全かつ有効な運動療法が行えることが明らかになっています。

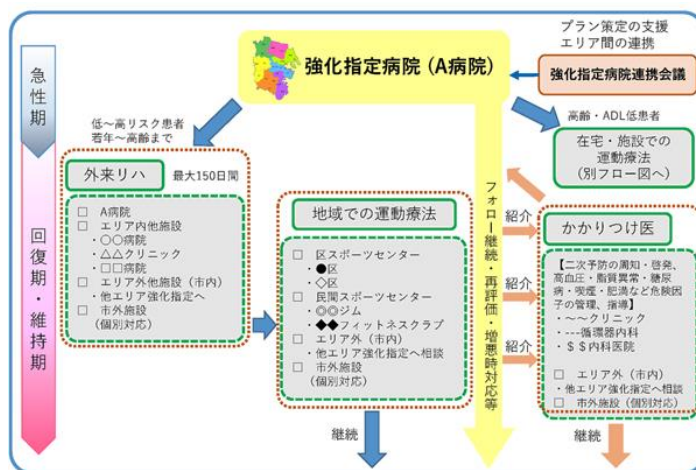
藤が丘リハビリテーション病院では、循環器内科医師・病棟看護師および外来看護師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・事務員からなる心臓リハビリテーション（以下、心リハ）チームが多職種協働で一丸となり、疾病管理に加えて、集団および個別に行う食事・服薬・生活指導などの患者教育、5階の心リハ室で集団運動療法、外来看護師による心リハ看護相談（カウンセリング）を行い、心臓病患者さんの健康寿命の延伸、再入院・再発予防、QOL 向上に努めています。



現在の外来患者さん向けの集団運動療法は、感染対策を行った上で午前・午後、それぞれ定員 7 人に限定して行っています。プログラムの内容は、体操→30 分間の有酸素運動（エアロバイク・トレッドミル）→5 分間の筋力増強運動（レジスタンストレーニング）→整理体操を 1 時間で行っています。現行医療制度では、リハビリの算定期間は開始日から 150 日間であり、外来患者さんは週 3 回の頻度までとされています。外来だけでなく、急性期治療後に 2～3 週間入院して、1 日 2 回の集団運動療法も行ってい

ます。これは全国的にも珍しい取り組みであり、通院が難しい患者さんや、体力低下を来した患者さんに対して積極的に取り入れています。実際に、藤が丘病院に心筋梗塞と心不全で入院した患者さんで、当院心リハに参加した方としなかった方で比較すると、参加者において循環器病の再発や再入院が有意に減少していました。

2018 年に回復期と維持期の心リハを普及させる取り組みである『横浜市心リハ推進事業』における強化指定病院の一つに認定され、スポーツセンターなどの運動施設との連携システムを構築しています（下図）。当院の心リハ期間終了後は、青葉区スポーツセンターや近隣スポーツセンターに紹介しています。



今後も当院心リハチームは、地域医療に貢献し、心臓病患者の健康寿命の延伸に少しでも貢献できるよう、努めてまいります。

**パーキンソン病  
短期集中リハビリ入院開始！！**  
リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター  
理学療法士 小西 正浩

藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンターでは、2021 年 11 月より「パーキンソン病（以下、PD）の短期集中リハビリテーション入院」の運用を開始いたしました。

PD 患者さんの病態進行抑制には、適切な早期診断を基礎とした投薬加療とともに、リハビリテーションの有効性が確立されてきています。また、近年のコロナ禍の状況において、PD 患者さんのフレイルの問題が指摘されています。フレイルとは、加齢に伴う様々な機能変化や予備能力低下によって、健康障害に対する脆弱性が増加した状態です。フレイルは生命・機能予後に影響を及ぼす一方で、適切な介入と支援により改善可能であることが注目されています。PD 患者さんは、一般高齢者に比してフレイルの

罹患率が高いという報告もあり、PD 患者さんにおいてもフレイルへの対応が求められています。また、フレイル由来の身体的問題は、適度な身体運動や栄養管理など種々の介入による可逆性が示されており、進行性疾患において可逆的要素を見逃すことなく適切に介入することの意義は大きいと考えています。

そこでこの度、藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病棟の脳神経内科、リハビリテーション科、リハビリテーションセンターが連携し、さらなる症状の改善、動作能力の向上・維持等を目指し、当院に入院加療を希望されるPD患者さん（Hoehn&Yahr Ⅱ～Ⅲ程度）に対して、2～3週間の入院期間に集中的なリハビリテーションを実施することとなりました。入院中に実施する内容の詳細は、「短期集中リハビリテーションのご案内」を参照してください。

### 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 短期集中リハビリテーション入院のご案内

パーキンソン病になると体が動きにくくなったり、声が出しにくくなったりします。

短期集中リハビリテーション入院では、日常動作の改善や維持を目標に理学療法や作業療法を実施します。

様々なニーズに対応しながらトレーニングをすることでパーキンソン症状の軽減を目指し、より快適な生活を送れるようにしていきます！



入院期間：2～3週間

実施内容：基本的に6回/週（1日の中で40分×2回リハビリを実施します）

入院時と退院時にいろいろな検査を行い、リハビリテーションの介入によって変化した点を退院時にまとめてお渡しします。家でもできる体操メニューを入院中から練習して、退院後も家で実践できるようにしましょう！

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院  
〒227-8518 神奈川県横浜市青葉区藤が丘2丁目1番1号 TEL: 045-974-2221



将来的には地域の近隣病院からも受け入れも検討しており、地域全体のPD病患者さんのQOL向上に当院が貢献できるように努めてまいります。

## 第40回 藤が丘地域連携フォーラムを開催しました

10月14日（木）、第40回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。本フォーラムは新型コロナウイルス

の感染状況を鑑み、昨年度よりオンラインでの講演としております。今回の藤が丘地域連携フォーラムはご多忙の中、64施設73名の医療機関の先生方等院外関係者の皆様、医師等院内関係者37名の総勢110名の方にご参加いただきました。皆様方には心より御礼申し上げます。

### 第40回藤が丘地域連携フォーラム講演会

#### 1. 「高齢化社会で慢性腎臓病と向き合うには」

藤が丘病院 内科（腎臓） 小岩 文彦

#### 2. 「リハビリテーション診療Up Date」

藤が丘リハビリテーション病院

リハビリテーション科 川手 信行

次回の藤が丘地域連携フォーラムは2022年1月13日（木）に開催を予定しております。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

（藤が丘病院 医事外来課 高橋 美保）

## 地域合同防災訓練を実施しました

10月24日（日）、災害発生時に適切な行動ができるよう実践的な訓練を行い、防災意識の向上を図ることを目的として、昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病棟地域合同防災訓練を実施しました。今回は感染拡大防止の観点から規模を縮小し、本部機能を中心とした机上訓練といたしました。



新型コロナウイルス感染症の影響下における災害対応をテーマの一つとし、検温や抗原検査、隔離等の感染対策を考慮した災害傷病者の受入方法や、新型コロナ陽性または結果未確定の入院患者さんの避難方法について協議を行いました。

訓練には青葉区4師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会、柔道整復師会）、アマチュア無線非常通信協力会の皆様にもご参加いただき、有事の際に各組織がどのように連携すべきか、率直な意見交換を行いました。今後も「災害拠点病院」としての使命を果たすため、平時からの防災機能強化と地域連携の強化を図ってまいります。

（藤が丘病院 管理課 平山 実佳）

## 褥瘡対策セミナーを開催しました

11月15日から29日まで褥瘡対策セミナーを開催しました。今年度は、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を鑑み、オンラインでの講演とさせていただきます。

- 講演1 「褥瘡治療に使用する薬剤と使用方法」  
 藤が丘病院 皮膚科 鈴木 茉莉恵
- 講演2 「褥瘡患者の栄養管理」  
 藤が丘病院 栄養科 山尾 尚子
- 講演3 「看護師特定行為修了者としての役割」  
 藤が丘病院 皮膚・排泄ケア  
 認定特定看護師 富田 和也

今回の褥瘡対策セミナー公開期間中は、ご多忙にもかかわらず多くの方々にご視聴・アンケートのご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

褥瘡対策チームでは、院内の褥瘡発生率・現状把握・分析、院内外での研修会の開催を行っています。また、患者さんへより良い療養環境を提供できるよう、多職種による褥瘡回診にて褥瘡予防ケア、治療を行っております。今後も、地域医療・介護・福祉へ貢献ができるように邁進していきたいと思っております。

- 〔 藤が丘病院 皮膚・排泄ケア  
 認定特定看護師 富田 和也  
 藤が丘病院 医事入院課 門田 美佳 〕



## 神奈川県警人質立てこもり事件対応総合訓練にIMATが参加しました

藤が丘病院は神奈川県警察本部とIMAT（事件現場医療派遣チーム）の協定を締結しております。このチームは、人質立てこもり事件やバス・船舶等の乗っ取り事件など、事件発生現場等で傷病者が発生する可能性がある場合に出勤し、傷病者発生時に現場で高度な応急治療を行い、救命率を向上させることを目的としております。

この度、11月12日（金）に人質立てこもり事件対応総合訓練に参加しました。県警からの要請連絡に応じて現場へ急行するところから開始し、人質の保護や応急処置、警察突入による被疑者の確保等、緊迫感のある本番さながらの訓練が実施されました。

今後も、有事の際にはいち早く現場に到着し、不測の事態に備えられるように訓練を重ねてまいります。



（藤が丘病院 管理課 平山 実佳）

## 診療統計 2021年10月・11月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2021年10月	2021年11月	2021年10月	2021年11月
外来患者数	23,316人(932.6人/日)	21,839人(949.5人/日)	4,648人(185.9人/日)	4,614人(200.6人/日)
入院患者数	15,717人(523.9人/日)	14,725人(490.8人/日)	5,553人(179.1人/日)	5,602人(186.7人/日)
紹介率	79.7%	80.6%	76.3%	79.4%
逆紹介率	88.9%	80.8%	72.1%	85.5%

### ＜広報・公開講座委員会委員＞

森岡 幹 川手 信行 原田 浩史 鈴木 洋 佐々木 春明 今井 敦 市川 度  
 中田 土起丈 小岩 文彦 西村 栄一 小林 孝弘 泉 紀子 前田 うづみ 佐藤 美津恵  
 山寺 志保 黒田 上総 岡部 圭吾 門田 美佳 山田 大暉 高橋 良治 (順不同)